

福井まちづくり啓発録

～ 育むまち うらのまち ～

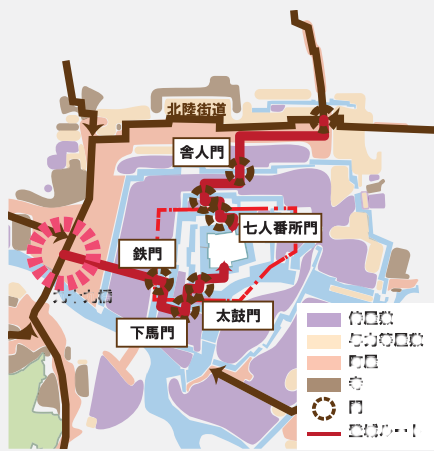


福井の中心市街地は環郭式の城郭構造が残っており、現在でも城址としての名残を大きく留めている。また、内堀の外側は戦災・震災復興により都市基盤が大幅に強化され、行政や業務機能などが集積した市街地として生まれ変わってきた。
しかし、現在は市街地の更新期を迎えつつあり、必ずしも市民の誇れる場所になっていない。一方、福井城址周辺の再整備の機運が高まっており、新たなまちの魅力の創出が期待されている。
これからの福井の中心市街地は整ったインフラと都市集積を活かしたうえで、市民の心の拠りどころとなるような魅力づくりに注力すべきである。そのためには個別のプロジェクトだけでなくまち全体としての取り組みが必要で、市民が将来像を共有したまちづくり、戦略的、継続的に展開していくまちづくりを、福井市民の現代版まちづくり「啓発録」として提案する。それらが実現すれば福井の中心市街地は再び郷土愛に満ちたうらのまちとしての誇りを取り戻すだろう。

< 市街地変遷 >

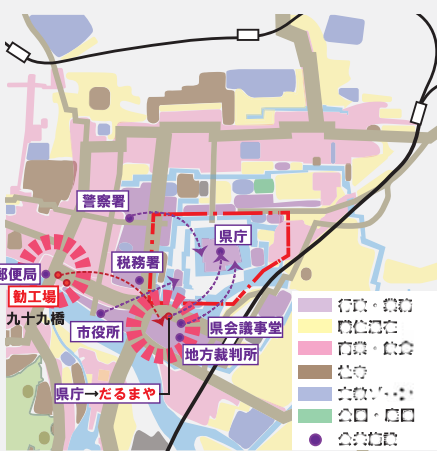
江戸 江戸時代から形成されてきた城下町

1615年に現在の場所に築城され城下町が形成される。城郭内に侍屋敷、北陸街道沿いには、足羽山麓まで町屋や寺が並び、町屋の中心は九十九橋周辺であった。街道は城郭外を巡り、要所となる門を通過し登城していた。



戦前まで お堀まわりが時代とともに変化

廃藩置県後、鉄道の開通や堀の埋立てなどにより、商業・金融など町の中心は、大正末期の県庁や市役所の移転により、福井駅前へ移行していった。



現代 駅を中心とした現在基盤が形成

戦災・震災による市街地の消失により、城址周辺以外の堀が埋立てられ、城下町は区画整理事業により道路が整備される。商業・業務は福井駅前、庁舎は本丸や南側に集積され、本丸内は県警・県庁を利用する人のみの場所となった。



< 将来市街地構造 >

本丸、お堀まわりの2つのゾーンに区分し、本丸ゾーンは城を復元し、市民に開放する。お堀まわりゾーンは、行政・業務機能を再編し、城と駅や商業地をつなぐオープンスペースを整備する。



< まちづくり啓発録（再生の考え方） >

一 復原 本丸を復元し市民に親しまれる場所をつくる

本丸を福井市民の心の拠りどころ、より親しまれる場所にしていくために、県庁、県議会、県警機能を本丸の外に移転させて、福井城の復原を図る。城の歴史的価値を尊重しつつも、天守閣、本丸御殿、庭などを復元した空間を市民文化活動の拠点として活用する。復原のプロセスを伝統技能の継承、市民の活動参加機会の創出、中心市街地再生の資金循環の育成の仕組みづくりに活用する。また、県議会棟の転用、路面電車の延伸など、既存資源の活用や新たな魅力要素を盛り込むことも考えられる。



一 再編 県庁、業務機能を再編して都市機能の集積を維持していく

中心市街地の活力を継続していくために、県庁を含む現在の機能集積はできるだけ中心市街地内に維持していく。そのために県庁、県議会、県警の移転先はお堀まわりの市役所に隣接する場所とする。官公庁機能の移転に合わせて内堀南側に集積している業務機能も、より魅力的な就業環境を創出するために玉突きで再編していく。さらに、新たな産業育成の場として起業支援にも取り組み、それらと一体的に内堀東側や北側では都心居住やSOHOの整備などを進めていく。

一 眺望 福井駅と天守閣を結ぶ都市軸を形成する

北陸本線の高架化、えちぜん鉄道の駅の移設などに加えて駅前広場整備、新幹線の開業が予定され、福井駅の公共交通の利便性は確実に向上しているが、中心市街地との関係が希薄で特に福井城は距離が近いにも関わらず駅から存在感が感じられない。これまで実現できていなかった福井駅から天守閣を望むことのできる都市軸を街区再編とも連携して整備し、福井の顔を魅力あるものにする。

一 回遊 中堀空間を快適なオープンスペースとして再現する

中央公園整備は、歴史的遺構を復元しながらまとまったオープンスペースに乏しい中心市街地に新たな潤いと屋外活動を生むことが期待できる。ただし、周辺との関係が希薄であることから、さらに中堀空間を南側に再現し、登城ルートであった大手門の復原などと合わせて南北の軸線を強化する。それにより商業地に連なるまちの回遊性を創出する。

一 郷土愛 まちの再編と合わせてまちづくりの担い手を育成する

天守閣の復原をきっかけとしてまちづくりを継続して展開していくために、市民がまちの将来像を共有しながら、まちの再編に主体的に関わる機会を設ける仕組みをつくっていく。当初はまちを楽しむプログラムを展開していくことから始め、さらに、まちづくりを担う人材の育成、まちづくりを実現していく資金的な仕組みの構築へとつなげていく。

< 都市再生の展開イメージ >

まず「お堀まわりゾーン」で福井城通り整備と周辺街区の再編を行い、県庁移転用地を確保する。「本丸ゾーン」はシンボルとなる天守閣をつくり、県庁移転後はオープンスペースとして活用を図りながら橋、門、本丸御殿を少しずつ再建する。

年代	都市構造	本丸ゾーン	空間整備	お堀まわりゾーン
2025	● 天守閣完成	● 北陸新幹線全駅 - 敦賀開通	● 福井城通り完成	● 中央公園完成
2035	● 県庁移転比較検討	● 県庁移転	● 七ツ蔵完成	● 作場町・切手門完成
2045	● 県庁舎移転・解体	● 県庁舎移転・解体	● 福井城通り街区完成	● 七人番所門完成
2055	● 県庁舎移転・解体	● 県庁舎移転・解体	● 福井城通り街区完成	● 福井城通り街区完成
2065	● 県庁舎移転・解体	● 県庁舎移転・解体	● 福井城通り街区完成	● 福井城通り街区完成

< 県庁の移転比較検討 >

中心市街地内での移転、郊外移転を含めた検討を行い、中心市街地活性化に最も貢献する案を採用する。

	業務街区を再編して移転	区域内分散配置案	郊外移転
概要	県庁周辺の業務街区を再編してローリング	県庁周辺の未利用地に移転	郊外で土地を確保できる場所に移転
中心市街地活性化	○ 現位置ほとんど変わらず、周辺商業地への影響が少ない ○ 土地の有効活用ができる	○ 現位置ほとんど変わらず、周辺商業地への影響が少ない ○ 土地の有効活用ができる	△ 中心市街地から離れてしまう
事務機能	○ 現位置ほとんど変わらず、△ 事業効率が落ちる ○ 機能上問題ない	○ 現位置ほとんど変わらず、△ 事業効率が落ちる ○ 機能上問題ない	△ 影響がわかりづらい